

宮内彩の New Zealand Style no.9

Laurie Foon

ウェリントンにベースに活躍するデザイナー、ローリー・フーン。「Starfish」と「Laurie Foon」の二つのブランドを手がける彼女は、小柄でこやかな女性。外見からは想像がつかないが、「フーン」の名前から解るとおり、彼女は中国系の血を引いている。

「オークランドに来たら、インタビューさせてね」とかねてから頼んでいたところ、「家族でバイオプアイランズにホリデイに行く途中で、オークランドに寄ったから」と時間を割いてくれた。

ローリー・フーンは、ウェリントンの代表的なデザイナーの一人。彼女の店、「スターフィッシュ」と言えば、誰もが知るファッションブティック。彼女がデザインするブランドはもろんのこと、アクセサリや靴、また、ローリーの眼鏡にかなった他ブランドの商品なども並ぶセレクトショップだ。

「ウェリントンでは、仕事まで歩いて通う人が多いんです。私も仕事まで歩いて通っています。だから、服装も見た目だけではなく、実用的である必要が大きいと思う」と語る彼女。そんな所から、ローリーの着やすい服が生まれるのだろう。

Laurie Foonの今シーズンのテーマは「Miss Mary Marle」。デビュタントよりインスピレーションを受け、プリンセスをイメージさせる、ラブリーなコ

レクションだ。ピンクやエメラルドグリーン、オレンジなどの綺麗な色使いや、至るところに見られる、ウェリントンのアーティスト、アロー・ウィリアムズによるリボンのモチーフが特徴だ。「NZのライフスタイルの定番の装いは、ジーンズとトップというカジュアルなスタイル。その中に、いかにこういう服を簡単に取り入れてもらえることができるかを常に考えています」という彼女。ドレッシーな素材感やリボンのアクセントなどで夢のあるスタイルを提案しながら、基本的にはジーンズ

とも相性の良い、着やすいアイテムが多い。「Laurie Foonはショー効果の高い、プレステージブランドなのに対して、StarfishはNZの女性達の日常の定番スタイル」と語るローリー。13年前からニュージーランドの女性を虜

にしているStarfishのブランドは、毎日着られる定番アイテムが充実している。毎シーズン新色がプラスされるホットクロス・キャミと名付けられたキャミソールは、永遠のベストセラーだ。ベーシックなTシャツや単品に、程よいおしゃれ感覚をプラスしたStarfishの服は、NZらしいリラックスして、カンファブルでいながら、ファッションナブルな日常着だ。

ローリーがファッションの道に進んだのは、母親の影響が大きい。「私の

EVERYDAY

シンプルなトップはリボンがポイント。アクセサリ次第で、普段着にも、おしゃれ着にも。トップ\$258
パンツ\$268

SHOPPING

スカーフやネックレスなどアクセサリの重ね付けで今年らしさを強調。サマーセーター\$198
スカート\$248

WEEKEND

鮮やかな色のホルタードレスはリゾート気分満点。ワンピース\$298

PARTY

ラブリーなピンクのドレスでデビュタント気分。ドレス\$338

WORK

トリミングのカーディガンは万能な一品。フェミニンな味わいで、仕事場にも大活躍。カーディガン\$198
ワンピース\$328

DINNER

きもの地のような肩ストラップとウエストのサッシュをポイントに。トップ\$258
スカート\$268

WORK

エレガントなジャケットでスポーティなスタイルもオフィス向きに。ジャケット\$428
キャミソール\$258
パンツ\$288

CASUAL

ドレッシーなトップとショートパンツを組み合わせて、遊び心たっぷりに。トップ\$238
ショートパンツ\$258



ローリー・フーンとカーリーン・ショラムが共にコレクションのデザインを手がける。

母のワードローブは、どんなブティックよりも素敵だった。洋服はきれいにハンガーにかけられ、きっちりたたまれて、お店のディスプレイのようだったわ。母は買い物大好きで、私もよく一緒にショッピングに行ったの。

16歳で学校を卒業してから、ウェリントンのクラシックなテラーのもとで働き始めた彼女。「ここで素材の調達や、服作りのことなどを学びました。その後ホールセール業者で働いた時には、卸売りのノウハウを学びました」と話す。常にファッション界の様々な分野で働いてきた彼女だが、「一番好きな部分はお店」と言い切る。21歳から25歳の間に旅をして歩いたヨー

ロッパでも、すぐにブティックの販売員の仕事についた。「ポルトガルに住んでいた時、まだ言葉もしゃべれなかったのに、お店で洋服を売りまくっていたの」と笑う。今でも、時間が許せば、ウェリントンのお店で顧客との交流

を楽しむのが好き。「私が最初の数年間に得た経験—服作り、仕入れ、小売り、卸のノウハウが、全て今のビジネスに活かされています」

今年の10月のNZファッションウィークではショーではなくて展示会をすることを決意したローリー。「今はショーよりも、物作りに専念したいから」と語る。「イメージや名前ばかりが先行してしまうより、しっかりとした商

品を作ることが、今の私にとって一番大切なのです。オーストラリアでも定着した人気を集めているローリーのブランド。

NZファッションウィークのデザイナーリストに名前はないが、今後北半球にもそのファンを広げ

ていくことは間違いのないだろう。2歳になる娘を持つ彼女はこう語る。「このビジネスは私のもう一人の子供のようなものです。ゆっくりと一歩一歩、急がずに育てていきたいと思っています。」



宮内彩 東京生まれ、西町インターナショナルスクールを経て、スイス、ル・ロゼ高校、米タフツ大学卒業。帰国後、パリ・ミラノ等世界のコレクション取材、雑誌・新聞・テレビ・ラジオ等でファッション・コラムニストとして活動。オークランド在住の中村嗣氏と結婚のため、2000年より生活の拠点をNZに移動。01年、長男・章人君02年、次男・天人君誕生。子育ての合間を見て、旅・食・住等ライフスタイル全般のコラムニストとして英語及び日本語で執筆活動を続けている。著書は近代文藝社「おしゃれのエッセンス」「おしゃれのエッセンス旅コレクション」(母・大内順子と共著)等。NZでの生活のエッセイが載っているホームページはwww.ouchi-junko.com